小　　豆

炭　疽　病　*Colletotrichum phaseolorum*

Ⅰ　防除の狙い　　本病は２～３葉展開した頃から収穫期ごろまで発生し、幼苗の場合には枯死にいたることもあるが、普通は枯死することはまれである。病勢が激しいと葉が早く枯れ上がり、落下する。莢に発生した場合は暗緑色水浸状の病斑となる。本病原菌は罹病組織上で菌糸の形で越冬し、翌年の第一次伝染源となる。また、種子伝染をする。

Ⅱ　防　除　法

1.　圃場衛生に努める。
2.　無病種子を用いる。
3.　多発圃場では連作を避ける。

さ　び　病　*Uromyces phaseoli* var. *azukicola*

Ⅰ　防除の狙い　　本病は全生育期を通じて発生する。主に葉に発生し早期に落葉する。本病原菌は小豆体上で全生活史を経過する。罹病組織中で越冬し、翌年の第一次伝染源になる。幼芽が伸長し初生葉が展開する頃までが感染を受け易い。土壌水分が高いと感染が増加する。激発地では初発期から薬剤防除をおこなう。

Ⅱ　防　除　法

1.　圃場衛生につとめ、収穫後の茎葉は圃場から取り除く。
2.　多発圃場では連作を避ける。
3.　薬剤散布

薬剤防除一覧表参照

モザイク病

Ⅰ　防除の狙い　　アズキモザイクウイルス、ササゲモザイクウイルスなど４種があり、汁液伝染するほか、アブラムシ（マメアブラムシなど）によって媒介され、被害は大きい。４種のウイルスのうち、アズキモザイクウイルスは種子伝染をする。

Ⅱ　防　除　法

1.　無病種子を用いる。
2.　発病初期に罹病植物を抜き取り処分する。
3.　アブラムシの防除を徹底する。
4.　薬剤散布

アブラムシ類の項参照。

アブラムシ類

Ⅰ　防除の狙い　　小豆を加害するアブラムシの種類はかなり多い。密度増加は急激であり、多発の傾向が見えたら早めに防除する。

Ⅱ　防　除　法

1.　薬剤散布

薬剤防除一覧表参照

ハスモンヨトウ

Ⅰ　防除の狙い　　卵塊からふ化した幼虫が集団で葉肉だけを食害するので、被害葉は白変する。発生は８月上旬からみられるが、量的に多いのは９月～10月中旬である。

Ⅱ　防　除　法

1.　薬剤散布

薬剤防除一覧表参照

カメムシ類

Ⅰ　防除の狙い　　莢に対する加害は極めて大きく、若い莢が吸汁被害を受けると落下したり、板莢となり、豆の肥大期ではしわ豆、奇形豆となる。防除は莢の若い時から肥大期にかけて７～10日毎に２～３回行う。

Ⅱ　防　除　法

1.　薬剤散布

薬剤防除一覧表参照